

雷電ドーム壁継続登攀

2016年2月20日（土）～21日（日）

岩内町 雷電海岸 雷電ドーム壁

板橋（L）、高橋

利尻山のプレ山行として行ってきました。

■DAY1 1ルンゼ～ドーム壁チムニールート

20日、6時45分。

生温い雷電海岸駐車場から各ルンゼを遠望すると、なんてこった！

2ルンゼ抜け口にデブリがもりもり、3ルンゼは手前の氷柱がぽっきりとなくなっているではないか。

1ルンゼは遠望する限り氷瀑の崩壊は無さそうだが、行ってみないと分からない。

ただ、上部斜面の両岸には積雪はなく多少安心する。

8時30分、1ルンゼ基部で氷の状態を確認すると想像してたより悪くない。いけそうだ。

ジャンケンに勝った岳ちゃんからツルベで登攀開始。二人とも初1ルンゼ。

1P 高橋 40m 氷壁。

2P 板橋 40m ルンゼ、歩き。

3P 高橋 50+？m 氷柱、氷壁。

3ピッチ目は欲張岳ちゃんのためにビレイ点が歩く大サービス。

おかげで偶数ピッチは特に面白くもなく通常4Pのはずが3Pで終了。

ルンゼをつめて上部の滝「岡滝」を偵察。結氷は上々でした。

岡滝手前からクライマーズレフトへつめるとそこはドーム壁の基部。

12：30 ドーム壁基部着

何はともあれテン場確保。

ドーム壁基部に唯一の平場を見つけるも、早々岳ちゃんのキジ撃ち場となってしまった。ここは却下。

あーだこーだ探し回り、結局は小尾根上に雪でテラスを作り城を建造した。

14：30 ドーム壁チムニールート

1P 板橋 40m

顕著なチムニー 首もまわらない。

内面登攀前に岩をちゃんと見ておかないと、入ってからでは何も見えない。

チョックストーンを越えて草付きを上がる。やっと景色を堪能できる。

ロープ 40mほどで灌木ビレイ。
気持ちのいいピッチだ。が、空身でないと泣きそうだ。

2P 高橋 30m

草付きを 5mほど右上して 6m程の立ってる壁を正面から登る。
露出感あるピッチで、内面登攀後のフェースは緊張する。

3P 板橋 50m

出だしの岩を越えたら草付き。あとはひたすら上へ。

残置支点は無く、内面からフェース、草付きと変化のある面白いアルパインルートでした。

下降はドーム頭へ向け 1P ブッシュ掻き分け登り、適当なところで木がしっかり生えてる南面斜面にトラバース。

バックステップと 2 度の 20m 程のラッペルでドーム基部へ。

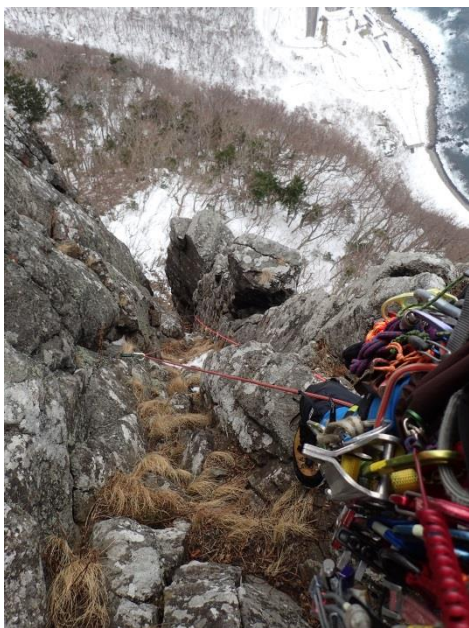
18 : 20 城に帰還。

のどの渇きに耐えかねた岳ちゃん、共同装備のワインを開けようという。

しょうがあるまい。

水を作りながら二人でボトル半分を開けてしまった。

DAY2 へつづく



■DAY2 ドーム壁スラブルート

夜のうちもっさり積もって冬に逆戻り。

アプローチ0分を取りつきへ。

7:00 ドーム壁スラブルート

1P 板橋

正面はだんだんと傾斜が強まり薄かぶりになる、左の面とクラックの雪を払いながら進む。

取りついてからまずキャメ.75とトライカム0.5を入れる。

その先は足元つるりん、で左面のリスしかない。

確実にグランドフォールできるなーと思い、比較的新しめの残置ハーケンとアブミのお世話になってしまう。

その上部はコンマサイズのトライカムと6番以下のナッツをベタ打ち。

フッキングとトルキングはばっちり決まっているんだが、僕の心はキマっていない。

壁は立っている、完全なドラツで適切なクラックを見つけ、ナッツを的確にセット（しかも6番以下・・・とほぼ）していけるだろうか・・・もちろんオポジションセットする余裕なんてない。たまにカツラが乗っかっているようなワンポイント草付きは刃先が1cm程しか入らない。胃が痛い。

腰にフィフィを着けていたことを思い出し、もちのろん！それからはフィフィ祭りとなる。

0.5mピッチでナッツ、トライカムをパチパチにセットして安全と安心感を得る。

（気合が足りない？根性？筋トレ？もちろん場数も？）

どれも僕には足りないが、これが今、持前のギアで僕にできる、最善の安全策だった。

ハング上部へ右上しているリスにハーケン連打してあったが、触ったらもげた。こっちはパス。



そのまま直上し、20m程登ったところの乗越しにかかろうとしたら、

はッ

草付きに刺したバイルが抜けた。

すぐ下の4番ナッツがはじけ飛ぶのが見えて、その下の0.25トライカムと6番くらいのナッツで止まった。

負け犬の遠吠えを一発入れてゴボウで上がるも、その手を停めて少し考えた。

こうゆう時は、感情的になりがちでそれが美しいときもあるけれど、冷静になって自分を客観視する事が大事だと思った。

少しして、降ろしてくれとパートナーに声を掛ける。
20mに一時間半程しか粘れなかった。くやしい。



その後は岳ちゃんにバトンタッチ。
トップちゃん状態で途中まで行ってもらい、僕のフォール箇所をなんとか乗越し岩の向こうへ 見えなくなった。

時折雪と石が落ちてくる。上部もかなり苦勞してそうだった。
それから小一時間、なかなかロープが出ない。
.....

エンジョイクライミング、エンジョイクライミング、エンジョイクライミング・・・
念仏も聞こえはじめた。いよいよ無我の境地へと行ってしまわれたか。

上部はジェードル状のつるつるスラブを除雪しながら 1cm くらいの棚にフッキングでなんとか体を上げていく。
雪をはねると 5cm くらいの棚もあり、ホッとする。
下から見たら何もない、冬のスラブはおっかないぞ。

10 : 30 終了点は灌木ビレイ、ロープいっぱい 50m でリード終了
11 : 20 フォロー終了

二人共、色々すり減らして 1 P を登った。
1 P に 3 時間 20 分を費やした。
濃いぞ。

2P 板橋

ただの草付きかと思ったら雪を払うと瓦状にスラブが敷き詰められた草付きが出てきた。
雷電の草付きはあなどっちゃあいけない。
30m 傾斜の落ちたスラブ草付きから 10m くらい最上部岩壁を登って、その上 10m くらい行くと灌木帯でロープいっぱい 50m。

12 : 45 フォロー終了

おやおや、3 ピッチのルートのはずだったがこれもまたロープいっぱい 50m 2 ピッチで登攀終了。

登攀中に風向きが変わり、北風になった。雪雲がせまってくるのが見える。

もう一本の継続と岡滝も気にはなっていたが、雪崩の危険がある為これにて終了。

下降は同ルートを城のある小尾根に向けラッペル 2 回。

1 ルンゼ終了点まではコンテで行く。

1 ルンゼ登ってきたパーティーから先にラッペルを譲ってもらい 3 回ラッペルで 16 : 00 駐車場
下山。

雷電アルパインはまだまだたくさん面白いのがあるようだ！



(記 板橋)